

○壁面L手すりとペーパーホルダーの配置

困ること：L手すりを使用する際、ペーパーホルダーが妨げとなり使用できない。



①



②



③



④



⑤

①のようなペーパーホルダーの配置が多いが、②のようにL手すりと壁からの距離が短いと、③～⑤のように手すりを使用する際、壁面設備が腕や身体にぶつかり、立ち上がりや衣類の着脱ができない、またはしにくくなる。



⑥



⑦



⑧

⑥⑦はL手すりの壁からの距離が135mm、ペーパーホルダーの奥行きが100mmのためぶつかることは少ない。L手すりの壁からの距離が短い場合は、⑧のようにペーパーホルダーをL手すりの下へ設置するとよい。

★私たちが推奨する配置★

L手すりの壁からの距離を200mmほどとる。やむを得ず200mm以下の場合、L手すりの壁からの距離より奥行きが短いペーパーホルダーを選択するか、手すり使用を妨げない位置にペーパーホルダーを設置する。

○非常ボタン、洗浄ボタンなどの壁面配置

困ること：意図せずいつの間にか非常ボタンなどを押ししてしまうことがある。



①



②



③

衣類の着脱などのために便座上で手すりを利用して身体を左右に傾ける動作をする際、①②③のように、L手すりと壁からの距離が短く、また、丁度肩などがられる位置に非常ボタンや洗浄ボタンが設置されていると、いつの間にかボタンを押ししてしまうことがある。

★私たちが推奨する配置★

壁面配置は全体のバランスで判断する必要があるため、具体的な配置には言及しない。